

# Window

Vol.3

Tsuruta hospital communication paper

鶴田病院 地域連携広報紙

Window(ウィンドウ) 第3号

発行元 鶴田病院 地域連携・相談支援センター

発行日 平成 25 年 12 月 10 日

住所 熊本市東区保田窪本町 10-112

TEL 096-382-0500

FAX (直通) 096-382-0573

E-mail renkei-hp@kakuyuukai.or.jp



## Topic1 地域連携研修会（介護事業所向け）を開催いたしました

平成 25 年 8 月 9 日に当センター主催で「介護事業所版地域連携研修会」を開催いたしました。この研修会は一方通行になりがちな介護事業所とのやりとりを相互通行にし、より顔の見える関係性を深めることで患者さん・ご家族への支援の幅を広げていければとの思いから企画しました。

当日は 24 事業所 44 名の方にご参加いただき、透析治療の実際をご見学いただいた後「透析患者の日常生活管理について」と題し人工透析センター師長西山由紀子が講演いたしました。講演終了後には活発な意見交換があり、「シャントや透析治療の様子を初めて見た」「透析の患者さんに親



近感が増した」「演者（西山）の熱意を感じた」「次は透析の利用者を受け入れてみたい」などうれしい声もいただきました。

ソーシャルワーカーの業務の中にソーシャルアクション（患者・家族をとりまく環境・制度に働きかけ、社会を変革していく取組み）がありますが、この研修も小さなソーシャルアクションとなったのではないかと感じます。本研修会の後、実際ご参加いただいたいくつかの施設が新たに人工透析の受け入れの検討を始めたとの報告を頂きました。まだまだ透析患者も含め、病院と介護施設や高齢者住宅（特にサービス付高齢者住宅等）の連携には課題が多いのが現状ですが、こうした取り組みを続けていくことで互いの連携が深まり、我々も地域包括ケアの一端を担っていければと考えます。

(古澤)

## Topic2 第 14 回地域交流知得講座開催報告



会場のホールは満員！！質問が飛び交いました

9月28日 14回目となります地域交流知得講座を開催しました。今回の講座は、鶴田病院整形外科部長 平井医師が講師を務め、「膝痛の原因と治療」と題した講演を行いました。

当日はまだまだ残暑厳しく暑い中にも関わらず45名の地域の方々にご参加頂きました。内容は膝の構造から痛みの原因とその治療法、膝の負担になりにくい運動療法など盛りだくさんでしたが、会場に笑いも絶えずあっという間の一時間でした。質疑応答では膝に悩みを抱えた皆様からた

くさんの質問が飛び交い、最後まで大盛況のうちに講座を終了することができました。

ご参加頂いた皆様、有難うございました。

(永木)

### Topic3 第2回緩和ケア病棟家族会

11月2日当院の緩和ケア病棟で最期を迎えられた方々の家族会が行われ、ソーシャルワーカーも参加しました。

当日は、18世帯22名のご家族が参加され、故人の思い出や現在のお気持ちなど様々な思いを語られました。生前に撮った写真のスライドも映し出され涙ぐまれるご家族も多くおられました。

私たちソーシャルワーカーにとってこのようにご遺族のその後の生活や思いを伺う機会はあまりなく、今回大変貴重な時間を過ごさせていただきました。

(磯田)



会の最後に「旅愁」を合唱しました

### Topic4 東区 在宅医療に関わる他職種連携研修会報告

平成25年10月11日、熊本市主催にて“東区 在宅医療に関わる多職種連携研修会”が開催、当院より鶴田豊診療部長はじめ、連携センターソーシャルワーカー3名が参加いたしました。今回が初開催となり、東部地区の在宅医療・介護に携わる人々の連携を目的に、医療機関、介護事業所、包括支援センターなどの関係者300名近くの参加がありました。事例紹介や名刺交換会の後、「理想の在宅療養生活」をテーマにグループワークを実施。事業所や職域の垣根を越え、活発な意見交換が行われました。

(長野)

### Topic5 役立つ社会資源♪#1 福祉タクシー

私たち医療ソーシャルワーカーは臨床の現場において「社会資源」を活用して支援にあたります。社会資源は「利用者のニーズを充足させる為に動員されるあらゆる物的・人的資源を総称したものと」されています。このコーナーでは、今までの相談業務で活用した社会資源で思い出に残るケースを紹介していきたいと思います。

脳梗塞による後遺症で半身麻痺となったAさん。お孫さんの結婚式に出席したいという思いからリハビリに励まれていましたが、思うように麻痺は改善せず介護を要する状況で結婚式当日が近づきました。ご本人もご家族も半ば難しいとお考えになっていましたが、ソーシャルワーカーより福祉タクシーをご紹介いたしました。

当日は女性のドライバーの方がAさんをベッドの上から会場までリクライニング車いすで送迎・介助いただきました。女性ドライバー特有のきめ細やかな心配りもありAさんも無事結婚式にご出席いただくことができました。



(熊本市内は特に福祉タクシーの業者が多く、価格も比較的安価にご利用いただけるようになっています)

作業後のホッと一言・・・今年もあとわずかになりました。皆様お体に気を付けて良いお年をお迎え下さいませ。